

# アジアにおける第4次産業革命と企業経営の課題と展望

## アジア経営学会第26回全国大会統一論題

アジア経営学会第26回大会プログラム委員会

委員長 風間信隆（明治大学）

委員 藤澤武史（関西学院大学）

林倬史（東京富士大学）

小阪隆秀（日本大学）

吉野文雄（拓殖大学）

大会実行委員長 穴沢眞（小樽商科大学）

## アジアにおける第4次産業革命と企業経営の課題と展望

令和となって最初となる第26回全国大会では世界的なうねりとなっている第4次産業革命がアジア各国の製造業と関連産業そして企業に及ぼす影響を取り上げ、議論を深める。周知のように2010年にドイツが『ハイテク戦略2020』で打ち出した「インダストリー4.0（第4次産業革命）はあらゆるモノのデジタル・ネットワーク化（IoT）の実現によるスマート・ファクトリーや製造業のサービス化のみならず、サブスクリプション・モデルなどの新たなビジネスモデルの登場を可能にしている。

アジアでも中国における「中国製造2025」、インドにおける「メイク・イン・インド」など各国が競い合うように政策ビジョンを公表し、ますます関心が高まっている。このような第4次産業革命はこれまで安価で豊富な労働力を活用し、規模の経済を徹底的に利用した規格量産型生産体制によって「世界の工場」となったアジアの経済発展モデルを変える可能性を秘めている。

第26回全国大会では第4次産業革命がアジアの企業経営に如何なる変革を迫っているのかを中国、インド、タイなどの事例を交えながら展望する。

### 報告者紹介

李澤建（大阪産業大学）：著作「第4章 勃興する新興国市場と民族系メーカーの競争力：自動車Ⅰ」『グローバル経営史：国境を越える産業ダイナミズム』名古屋大学出版会 2016年など。

上野正樹（南山大学）：著作「新興国戦略の再考：本国優位性の活用と水平展開プロセス」『国際ビジネス研究』（国際ビジネス研究学会）第10巻第1号、2018年4月など。

石川雅啓（JETRO）：著作『新しい貿易実務の解説』文眞堂 2019年など。